



# 熊本支部報

(社) 日本山岳会熊本支部

No. 19 平成21年9月30日

発行 (社) 日本山岳会熊本支部

熊本県合志市豊岡2000-810

松本莞爾方

電話 096-248-4485

発行者 工藤文昭

目	次
支部報の改訂とこれからの支部活動・・・ 1	クロツグミのこと・・・ 8
白きたおやかな峰・余聞・・・ 2	海外登山のお知らせ・・・ 8
いろいろな山・・・ 2	第3回登山教室報告・・・ 9
富士山に遊ぶ・・・ 3	山岳会ニュース・・・ 10
夏の想いで九寨溝・黄龍の旅・・・ 4	九州地区の山岳会ニュース・・・ 10
登山教室に参加して・・・ 4	会務報告・・・ 11
回想の山を訪ねて思ったこと・・・ 5	熊本支部の今後の事業・・・ 12
奥穂高岳からキレットを越えて・・・ 6	編集後記・・・ 12

## 熊本支部報の改訂とこれからの支部活動

支部長 工藤 文昭

一昨年、昨年は10月まで暑さが続き、今年も快適な秋の訪れは遅れるかと思っておりましたが、9月10日前後には行合の空も見られ、先日の久しぶりの雨の後は積乱雲もなくなり秋の雲に覆われるようになりました。

さて、年度末には会員及び支部の活動記録として「熊本支部報」を発行してきましたが、この頃他支部の会報発行は、年3～4回に分割して発行する支部が増加しております。支部員への情報の速報性を高め、会員への連絡事項等を掲載し、これまで事業の度に連絡していた郵送料を節約しようという狙いがあるようです。わが支部も昨年度からこのやり方について検討してきましたが、年4回発行に切り替えることにしました。ただし、改訂版1号の発行が遅れましたので、今年度は3回発行して、来年度から完全改訂になります。会報にもその後の事業予定を盛り込みますが、必要に応じて「熊本支部通信」も発行して支部の連絡、本部情報等も掲載することで支部報で伝えることが出来なかったところをカバーすることにしています。これまでのように事業の都度郵便で連絡することは余程の緊急連絡以外はやりませんので、「熊本支部報」及び「熊本支部通信」を熟読いただき、支部及び本部の事業にご協力いただきますようお願いいたします。また、原稿は年間を通して受け付けますので山行記録、山への思いなどお寄せ下さい。現在会員会友、総勢70名を越える大所帯になりましたが、事業への参加は少なく、返信ハガキを添えても音信不通の方も多くなります。山岳会への加入の目的は、一緒に山

に登り、クラブライフを共に楽しむところにあると思います。わが支部も2年前から事業数も増やし、公益事業にも取り組んでいます。そのためには会員は、山に登るだけでなく、山の文化、山から受ける恩恵について深く考え、昔から人の生活は山と切り離せない関係にあることを認識し、山に関わりながら生きていく事の大切さを理解しなければならぬと思います。先日、名古屋で支部長会議が開催され、2日間にわたり極めて内容のある討議が行われました。JACの現状として、会員の高齢化、若者の入会減少、新法人制度への移行問題、山の日制定への取り組み、支部活性化についての説明があり、各支部の公益事業活動、森づくり、山の日制定の取り組みが報告されました。それ等について活発な討議が行われる中で、さて、熊本支部は・・・と考えました。3、4年前の各支部の活動実績からすると、どの支部も社会貢献的事業の強化は目を見張る活動がありました。この3年間の熊本支部の活動も活発化していると思っていましたが、他支部の質の高い活動には大きな刺激を受けざるを得ませんでした。本部も様々な課題にプロジェクトチームを作り、その内容と解決策を示し、全会員の意向を把握するための取り組みを始めています。これからはそれぞれの支部独自の企画による活動が重視されるようになります。その為に広い意味で山と関わり、山に親しみ、山に学び、山と共に生きる心を持ち、多くの会員が参加した積極的な活動に取り組みしましょう。このような活動から、今まではなかった新たな山の喜びが必ず生まれてくるはずで、ご協力をよろしく願います。

## 『白きたおやかな峰』余聞

5421 本田 誠也

夜半、眠れないままにふと「小山 貢」さんのことを思いました。小山さんは昭和35年(1960年)熊本国体のとき、阿蘇山での登山競技に京都府チームの監督として出場された。私がコースリーダーを担当したBコースを期間中一緒に歩いた。

それから27年後の1987年10月、“JAC ‘京都比良の集い’”の前夜祭で再会した。小山さんは1965年に京都府岳連カラコルム登山隊(小谷隆一隊長)に参加して、ラカボン山脈のディラン(7257m)に遠征した。このとき小山さんは登頂メンバーとして土森隊員と頂上直下7181mまで迫ったが悪天候に阻まれ2回のビバークの後敗退した。この隊は後援が得られず隊員1人当たり50万円以上を負担したが不成功に終わったため、小谷隊長はじめ各隊員は帰国後負債の処理に追われたそうだ。ただ一人ドクターで参加した北杜夫(私と同年の1927年生まれ)は翌年、小説『白きたおやかな峰』を出版……ベストセラーになり20刷まで出したので、小山さんは「一人だけ儲けよった」とボヤいていた。余談になるが、北杜夫(斉藤宗吉)をはじめ昭和2年(1927年)生まれは後に作家になった人が多い。私を知る限りでも吉村 昭、城山三郎、藤澤周平、結城昌治、丸谷才一、渡部昇一、辻井 喬、河合隼雄、神坂次郎など十指に余る。終戦前後は、病氣療養中を除き殆ど学徒動員か予科練、特幹候などで厳しい体験を共有している。京都・比良の集いで再会した小山さんは、近い内に南米のパ



カラコルム K2

ラグアイに移住するつもりだと言い、グランチャコ  
の広大な自然林を購入して好きな「蛾」の聖域にするのだと熱っぽく話された姿が今も臉に残る。因にディランは1968年8月、オーストラリア隊により初登頂された。私は1987年4月、パキスタンのカラコルムハイウェイ走破の途次、ミナピンからディランを望見した。さらにナガールに廻ってバールトール氷河から再見を期待したが雲霧に遮られて見ることが出来なかった。旅の帰途ギルギット西方の丘からラカボン7788mを眺めたとき、少し離れてディランの尖峰が頭を覗かせているのを見た。小説『白きたおやかな峰』の中で「気丈な、強情な、無鉄砲な男」と書かれた快男子の小山さんを偲び感慨も一入であった。……2001年10月18日、南米から一時帰国中の小山さんは、京都で卒然と死去された。享年70歳……

## いろいろな山

9328 川端 浩文

おおげさなタイトルをつけたが実は小生山男以下かもしれない。単なる山道楽者かもしれない。

子どもの頃から時々郷里の里山に親に連れられて登った。蛇ヶ谷、小岱山、二ノ岳、三ノ岳だった。今時しばしば見られる飼い主の運動不足のお相手の犬みたいなものだったか、それとも息子にも自分の趣味を押しつけたようなものだったのか、それとも子どもへの何らかの期待だったのか今となっては知る由もない。

さて、定年退職を前にその後をどう過ごすか考えざるを得なくなった。たまたまその頃関わっていた留学生の父親が不動産業をされていたので、彼女の国へ移住して余生を過ごすのも一案だと考えたが確固たる信念なく断念した。次に考えたのが山暮らし。多少登山を重ねてきたので段々とその夢がふくらんだ。かつて、知人から山暮らしを誘われたとき即座にお断りしたのだったが今回は立場が逆転して彼を巻き込むことになった。近くの山麓を見てまわったが帯に短したすきに長し。思案の末かすかに

覚えていた阿蘇の方に電話で問い合わせた。さっそくその人の知人を紹介してもらい、方々見てまわったが、廣すぎ、電気がない、水場がない、急斜面、奥まりすぎ等々で決められなかった。きれいな小川のそばは廣すぎて管理できない。そこで知人に打診することになった。賛同してもらい共同購入。その後難題続出。川向こうへの渡り方、近所との共同作業、ぬかるみ対策、放置された大量の枝や丸太処理、飲料水・電気・トイレの問題、藪払い・虫さされ・かぶれ・蛇・各種の蜂・蟻の大群との格闘等々解決すべき問題がエンドレスに出てきた。それでも喜々として日参した(?)。あれからもう10年以上過ぎた。その間専門家に来て貰ったこともあったが大半は自力で解決した。何がそこまで自分を駆り立てたのか自分には分からない。「そこに山があったから」かな?多趣味が幸いして物置・風呂場・水道小屋・トイレ・椅子・テーブル等は大工や左官のもの真似で完成。今は、逝ってしまった連れ合いの同意・協力・励ましでここまで整備できたのかもしれない。里山作りもかなり進み四季折々の自然の変化や動植物も楽しめている。近年里山暮らしに憧れる人は多いが三日坊主で終わる人も多い。近所の人たちもその例外ではない。家主の来るのを待ちわびている山小屋を見ると何かわびしい。

## 富士山に遊ぶ

12909 永谷 誠一

富士山と私の出会いは昭和35年5月のことである。その秋開催された熊本国体の審判員養成のための春山合宿であった。5合目に幕営し実技としては吉田大沢を登りピッケル、アイゼンの歩行技術習得や滑落停止等を厳しく指導されたものだ。7合目からは完全蒼氷の状態であった。その後敬遠していた夏山に今回初めて登ることになった。参加者は21名、8月20日熊本より羽田に飛び、バスにて吉田口5合目(2300m)へ、入念な準備体操の後登りにかかる。予想はしていたが登山者の多いのに驚く。



6合目より7合目にかかる頃よりメンバーの中に遅れが目立つようになる。7合目の上部よりヘッドランプを付ける。宿泊は本8合目の「富士山ホテル」(3400m)だが、脱落者は7合目の「元祖室」(3200m)に急遽変更し泊まることにした。夕食のカレーライスを早々に食し、21時には消灯、寝袋に入り仮眠の後、午前2時に本隊を追うため出発するが、本8合目「とも之館」にて登頂を断念し休憩料1000円を払ってご来光を待つことにした。午前5時東天が明るみ雲の合間に太陽がのぞく。周囲に万歳の歓声があがる。本隊は頂上神社でご来光を拝み、お鉢巡りをして本邦最高峰「剣ヶ峰」に立ったとの報せが届く。同行している孫(中2)の喜ぶ顔が目浮かぶ。下山は土ホコリの中タオルマスクして10時に吉田口に到着。本隊は午後1時に到着。早速バスにて宿泊先の河口湖ホテルに入館し温泉入浴後、私の知人(河口湖畔にある施設はまなす園長:福田六花氏)の案内で青木ヶ原樹海を散策する。深い原生林、シーンとしている。

翌、22日は富士山絶景のビューポイントとなっている「三つ峠」に登る。登山口より歩きやすい登山道をたどり、約2時間で山頂着。残念ながら対峙する富士山は雲の中、直下の山小屋のテラスで昼食を摂る。すぐ横にそそり立つ屏風岩の大岩壁に数パーティーが取り付き、登はんを楽しんでいる。下山後箱根芦ノ湖周辺を観光し、箱根駅伝ゴール地点に建つ「モニュメント」を見学する。この夜は知人の持つ別荘「シャレー」にお世話になる。

23日は鎌倉に立ち寄り大仏殿、長谷観音を参詣し、途中横浜中華街を訪ね羽田空港19時発で無事帰熊する。一行に何等の事故もなくこの山行を終えたことに満足している。

## 夏の想いで—九寨溝—黄龍の旅

8605 門脇 愛子

数年来希望していて果たせなかった中国四川省九寨溝のツアーにやっと参加することの出来た今年の夏でした。

九寨溝は聞きしに優る素晴らしい景観で、環境汚染で自然が失われていく中で、まだこんなに美しい自然が地球にはあるのだと感動いたしました。

この地区は徹底的に自然保護が守られており、車の乗り入れ制限があり、トイレも多く設置されていますが、全部ビニール袋に入れて地区外に持ち出して処理すること。珍しい移動トイレ(トイレバス)もありました。又地区内での飲食禁止(弁当持参も不可、水はそれぞれ持っていました)。レストランが1軒だけ、清掃員が常時巡回散り拾いをしていません。遊歩道も景観を損なわないように造られ、足に本当にやさしい素材で歩きやすく、日本の木道にもこのような素材を使ったら良いのにと話し合ったことでした。そして感心したのは遊歩道に邪魔になるであろう立ち木や岩をそのまま生かしていること、日本なら切ったりどかしてしまうであろうにと思いました。

九寨溝・黄龍の滝や湖の美しさは既にテレビやいろいろな情報で知られておりますが、本当に神秘的な色と時と所によって微妙に変わり、息を呑む美しさでした。やはり見なければわからない景観です。又、地震の影響で観光客が少ないとの事、通常の半分程度とかで、ユックリ景観を楽しめました。五彩池という一番の名所では、他に客もおらず私たち一行の独り占め、ガイドもびっくりしていました。

九寨溝から黄龍への移動途中雪山峠(4007m)では滅多に姿を見せないという四川省の最高峰「雪宝頂(5588m)」が晴天に恵まれ白銀の峰を輝かせて見せてくれました。日本隊によって初登頂されたと聞き感慨無量で眺めました。

九寨溝はよく秋の景観で紹介され、絵はがきも秋景色が多いのですが、今の季節も緑と高山植物が美しく、ベストシーズンでもあります。ミヤマウスユキソウやキンレイバイ、赤、紫、黄色の花々、独特

のチージュバイなど草原を、湿原を彩っています。

天候と仲間に恵まれた2009年最高の夏の思い出でした。

岩と水 緑織りなす九寨溝

思い出を越える その美しさ

幻のブルーポピーをちらと見る

4007米の 高山ハイウェイ

雪宝頂 くっきり見える歓びに

運の良き日 旅の空かな



## 登山教室に参加して

会友 千原 幸子

今年は40数年振りという事が本当に多い年です。その中の一つが第2回登山教室です。息子の「元氣な内しかできんよ」の声に後押しされて即、応募当日は眠れぬ状態での参加となってしまった。車中色々な話を聞きながら目的地へ、初めて見るオオヤマレンゲ、なんと上品な白いドレスを着て迎えてくれた。山頂では久住の山々が出迎えてくれ、温泉では汗を流し、おまけのぜんざいまでご馳走になり、有意義な一日、感動のまま家路に。その気持ちのまま支部会友となる。しかし参加できるのは年2、3回位かも知れない。登山は素人なのに、場違いな所に入り込んだと先急ぎを後悔した。が、入会した以上は自分の体力と相談しながら、参加できる時は参加させていただき、山の空気を味わいながら、季節折々の大好きな野山の花を見に、一步一步大切に、思い出作りをしたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 回想の山を訪ねて思ったこと

8190 工藤 文昭

私がスイスのマッターホルンやモンブラン等を登頂して今年で40年になる。高校2年の頃から山に登り始め、山の文献を読みあさる中でマッターホルンに登りたいとの夢が膨らみ始めた。その頃ヨーロッパの山の資料は熊本では殆ど入手できず、東京の丸善書店から英語版のガイドブックを取り寄せ、辞書を繰りながら研究を進めた。同時に海外登山を意識したトレーニングも始めた。特にマッターホルンのヘルンリ小屋から頂上までの高度差1600米は急峻な岩稜が続き、この難所を登るために2年間、雨の日も風の日も阿蘇の岩場に通り続けた。その頃住んでいた玉名から50ccのバイクで阿蘇まで通うのは大変だった。

69年の夏に夢に見たヨーロッパアルプスに初めての海外遠征として出掛けたが、当時はまだ固定相場制で\$1=360円の時代、持ち出し外貨も1人\$500に制限され、日本で払えるものはすべて決済をすませて出掛けたが、1月の滞在費をこれで賄えばならずあまりに貧乏な旅になった。しかし、初めて仰ぐ大きな氷雪の山、千米を越える岩壁登山、ダイヤモンドのように輝く氷河登山の魅力、自然にとけ込んで登山を楽しむ現地の人々、どれもこれもそれまでの私の山登りで経験したことのないものばかり。当時私は31才で帰国後結婚を予定していた、この山を終わったら山登りから引退することも考えていた。しかし、山の新たな魅力を体感すると、山登りを絶つことなどとても出来なかった。当時の日本人の海外登山はヒマラヤかヨーロッパに偏っていたが、私はその後ネパール、アフリカのキリマンジャロを登った頃から、各大陸とも気候風土、植生、人、生活の違いに興味を湧き、それならと世界6大州の山に登ることに目標を定めた。丁度その頃日本山岳会の植村直己氏が5大陸の最高峰を極めたことに刺戟されたこともある。幸運にも遠征時はいつも好天に恵まれ、カナディアンロッキーのアシニボイン、アサバスカやニュージーランドのマウント・クック、豪州の最高峰カシウスコ（山らしくな

い大陸の最高峰)を登頂、途中北極グリーンランドの東海岸の山を登った後、六大州の最後となる南米のアコンカグアを登頂、目的達成に10年の歳月を要した。それからアプローチが短く、すぐに氷河の山に入れるニュージーランドやカナダの山に6回ずつ出掛けたりした。この両国は何時訪ねても変わらない自然が保たれている。これまでの24回の海外遠征の中で、最初に出掛けたスイスアルプスの山に無性に逢いたくなり、登頂40周年を記念して今回でかけた。5月下旬のヨーロッパは例年天候が不安定と聞いていたが、今回は中国が記録的大雨だったのに、ヨーロッパは毎日快晴に恵まれた。40年ぶりに再会する山の魅力はそのままだが、山里の様子はすっかり変貌していた。登山の基地となるツェルマット、グリンデルワルド、フランスのシャモニー、何処も昔のハイジの住む世界は消えて、観光産業の過剰な進出で、町中は勿論、草原の相当上部までホテル、別荘が乱立して昔の山里の静かな佇まいはすっかり消え果てていたのは寂しかった。元々、今回の旅は登山を目的にしてなかったのが、姿を変えた町にいるとやはり山屋は山登りが恋しくなり、少し装備をレンタルして氷河を歩き回り、名もない氷雪の丘に立って昔命掛けて登った山に対峙すると、あの頃の感動と苦労が蘇り身動きできない。そんなことを幾度か重ねているうちに、ふと気付いたのだが、「回想の山」なんて、もう自分は山登りを諦めたのか、うら寂しい思いが湧いてきた。思い出の山巡りを終わって、ドイツのロマンチック街道に車を走らせたが、スイスで感じた気持ちは晴れなかった。



私の海外登山のはじめは、ただ無性に外国の山に登りたいだけだったが、登り続けているうちに、それなりに登らなければならない理由があったように思う。それは、1人で何が出来るのか、自分の可能性を試したかったこと、この世に氾濫している様々な情報の真実を自分の目と身体で確かめたいとか、教師である私は、自分が夢を追いかける姿を見せて、生徒が自分の夢に挑戦する生徒を育てることにあつた。これはかなり意識的に行つたが、そんな生徒が何人も育つた。

先人の言葉に「辿り来て、未だ山麓」というのがあるが、私も50年以上山の目標を保ち続け、トレーニングを怠らず各地の山を歩き続けてきた。山からいただく生きる力を、深田久弥先生は「野生の充電」と言う言葉で残されている。まだまだ私の人生も、山麓に辿り着いただけ、これからも年相応の夢を持ち、野生の充電をしながらそれを追い続けなければならない。今回の旅で若い頃の力溢れる行動力を少しは取り戻せたように思う。これからも更に登り続けて、いつかは自分の人生の頂上に辿り着かねばならない。もう、回想の山など思うこともないし、言うこともない。

## 奥穂高岳からキレットを越えて

(H21. 7. 31~8. 7)

14308 木曾萬喜治

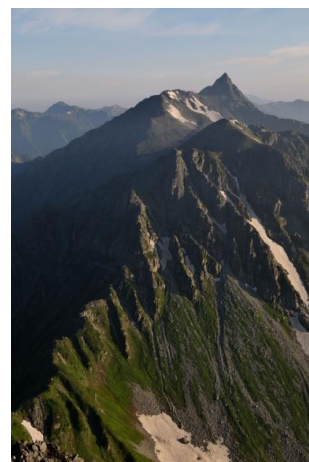
今年の夏は唐松岳と奥穂高～槍ヶ岳まで縦走することにした。

唐松岳は昨年に続き7回目の登山となるが北アルプスが初めての7名を引率しての登山である。このため、安全で楽しい山登りが出来ることを最優先に考え1泊2日とした。

唐松岳は雨やガスで視界が悪く、山歩きとしては良くはなかったがその中で一人の落伍者も出ずに無事に頂上まで行き、下山することが出来たことと、高山植物の花は例年に比べ多く咲き、またガスの切れ目から剣岳・五龍岳・白馬三山など

多くの山が見え、北アルプス登山を満喫できたものと思う。また、最後の目的地の上高地では天気も回復し早朝、ホテルからの明神池までの2時間の散策は青空の中に前穂高・明神岳の全貌が見え、明神池の透明な水、樹木も美しく初めて見る光景に全員が感動したようだ。上高地で7名と別れ、これからが私の山登りの始まるとなる。今年は大きな目的もなく、美しい光景に出合い写真撮影ができれば良いと考え、大まかな日程で穂高岳を目指した。

8月3日、早朝に訪れた明神館まで約1時間、また同じ道を歩くのは嫌になるが一人のため、気分的に楽で快調に飛ばし予定より早く15時に涸沢ヒュッテに入る。涸沢カールの雪渓は多く、テント場が狭く感じられる。



8月4日 快晴で穂高の山並が綺麗に見える。ゆっくり朝食を済ませたのち奥穂高を目指す。ザイテングラートの手前の斜面にはチングルマやキンバイの高山植物が咲き誇っている。花を見ながら岩尾根を登って行く。9時、奥穂高小屋に到着。小屋の前に荷物をデポし、カメラ機材を持って頂上に向かう。30分程で頂上に立つがここも人も多い。頂上でゆっくり景色を眺め少し早いが小屋で買った寿司弁を頂く。最高に美味しい。

頂上を後にする頃、ジャンダルムにガスが覆い見えなくなる。天気は下降気味か？

奥穂高小屋ではヘリコプターによる荷物の積み下ろしを眺めボンヤリと過ごす。ただ、昼前から小屋に沈殿しては勿体なく、写真撮影が良い北穂高小屋に向かうことにしたが涸沢岳の頂上付近では(12時)涸沢の方からガスが上がってきた。これから北穂高岳までは長い岩場の下降の連続だ。約1時間ほどの岩場の下降中の所で小雨が落ちてきた。クサリ場の危険箇所のためザッ

クも下せないため雨具も着用できずにそのまま下降。幸いなことに30分程度で雨も止んだが岩場が濡れて滑りやすくなってきた。3点確保で岩に取り付き慎重に降りる。最低コルに着くとホット一息つけ、今来たルートを振り返り見ると見上げるような岩場が長く続いているのが分かる。北穂高岳へは1時間程の登り返して最後の岩場を登り切ると広い頂上にでる。頂上直下に小屋があるためか多くの登山者が休憩しており、出迎えてくれる。その中に前日、涸沢ヒュッテで同室だった3人も暖かく声をかけてきた。小屋のテラスからは槍ヶ岳、笠ヶ岳、常念岳も一望でき、また頂上から滝谷の全容が分かる。

8月5日 朝晴れて槍ヶ岳が良く見える。

6時過ぎ小屋を出発、小屋の前から一気に垂直に近いルートを下りて行く。このルートも岩場の連続で長い。途中で飛騨泣き、長谷川ピークと痩せた尾根が続く難所が多い。A沢コル付近で槍ヶ岳方面から来た登山者に多く出会う。途中、登山者と駄弁ったり、写真を撮りながらノンビリ歩く。

最低コル付近からまた、ガスが湧き辺りを覆ってきた。南岳へは最後の岩場を上り、2段の梯子を登りきると南岳小屋に10時30分着いた。小屋の前では雷鳥親子が餌を啄んだりしており、しばらく時間を費やす。槍ヶ岳へは3時間程度で行けるがガスで景色も見えなく面白そうでないため明日は天気が回復することを願って南小屋で沈殿にすることにした。

8月6日 前日の天気予報では曇りか小雨とのことであったが予想通り朝から生憎のガスで真っ白、小屋の周りは何も見えない。今日は写真撮影もだめ、これから行く槍ヶ岳、槍沢、横尾へのルートは特に危険な箇所も少なく、今日中に松本市内まで行ければ良いと決めてのんびり行くことにし小屋を6時25分に出た。今年のキレット越えで夏山は終わったが例年になく雨か曇り空が多い天候であった。また、槍ヶ岳から奥穂高岳へ向かうルートは数回、経験があるが奥穂高岳から槍ヶ岳への逆ルートを通るのは初めてで高度感を感じる下降の連続であった。幸いなこと

に岩はしっかりしていてホールド、スタンスも確保でき基本をしっかり守って歩けば緊張感はあるが楽しい歩きとなった。ただ、約17Kのザックを背負って下降となると足場が見えず、ザックに振られるなど奥穂高岳から槍ヶ岳へのキレット越えの方が数段、難易性が増すと思われる。その中で涸沢岳から北穂高岳の下りの箇所の方が北穂高岳の下りのキレットより難しいのではとは思っている。登山者の9割ほどが槍ヶ岳方面から奥穂高岳方面へ向かっているがやはり、上りの多い方が安全で登り易いためだろう。ただ、登山者の中に明らかに初心者と思われる方が岩に取り付いているのを見て事故が起きなければ良い



が、と思ってしまう状況が見られた。すれ違い様に登山者にこれから先は危険な箇所が多いので「3点確保で行きなさい」と注意すると「3点確保で何ですか？」と答えがある始末。中には南岳下部の岩場でストックを両手に持って降りてくる登山者もいる。特に外国人は服装もマナーも悪い。靴はゴム長で両手にストック、ガラ場で降りてくるのを待っていると分かっているにも関わらず、上部から落石のし放題、文句を言っても言葉が通じず、イライラするばかり。今回のキレット越えを終えて中高年者の事故が増加している原因は自分達の技量も知らず、安易に山に入る状況下では事故は減少することは無いと思われた。

特に岩場の多く危険箇所も多いキレットなどのルートは入山規制（経験者の同行など）、登山教室での基礎知識の習得・経験を踏まえた登山者だけ許可するなど事故防止対策が必要と思われた今回の夏山であった。

## クログミのこと

5120 石井 久夫

2009年8月1日から2日にかけて宮崎支部主催のこども登山教室が阿蘇の杵島岳を中心に実施され、サポートとして参加した。

宿泊は国立阿蘇青少年交流の家で高原の清涼な空気を思い浮かべながら現地へ向かった。

夜に雨が降り始めて明日の天気を気遣いながら眠りについた。

翌朝久しぶりに早く目を覚ますと、雨も止み外庭に出ると夏鳥のコーラスが聞こえてきた。耳を澄ますとヒヨドリ、イカル、アオゲラ、シジュウカラ、ヤマガラなどの声。その中で一段と際だって聞こえてくるのがクログミの声。クログミについてはいろいろの楽しい思い出がある。

約25年も前になるが高千穂町在住の時、熊本支部の例会が阿蘇で開催された事がある、その時に登った山が阿蘇外輪山の一角を担う鞍岳でミルクロードから奥まった牧場に車を止めて頂上を目指した。現在の鞍岳は菊池方面へ道路が延びて楽に登れるが当時は道路もなく頂上までかなりの行程を歩いたような気がする。

頂上で休んでいるとき、目の前のミズナラの繁る雑木林の梢にクログミの姿を目の当たりにして、クログミの独特な鳴き声、キキコ、キキコ、キョイ、キョイ、キョ、キョ、ピョ、ピョ……を聞き、その時初めて見るクログミの姿と鳴き声に感激しながら下山した時のことは今でも鮮明に覚えている。クログミは日本に夏鳥として5月初旬に渡来し、北海道、本州、四国九州に生息して地上で

跳ねながら餌を捜している。九州では特に標高の高い阿蘇地方や霧島地方の落葉広葉樹林に多く渡来する。



クログミ

5月から7月にかけてよく樹林で囀る。蘚類を主に椀形の巣を作り、主として昆虫類を主食とするがヤマザクラなどの木の実も食べる。冬は中国大陸南部やインドシナ半島に渡り越冬する。

阿蘇でそのクログミの歌声を久しぶりに聞き懐かしさを覚えた。耳に入る鳥の声は心持良く、夏の早朝に聞く彼らの歌声は清々しく心にしみり、リフレッシュさせるエコーミュージックの様でもある。またクログミは編曲の名手で鳴き声をいろいろとアレンジして即興的に様々の音色を聞かせてくれるテノール歌手でもある。居住している霧島に御池野鳥の森があるが、毎年少数のクログミが渡ってくる、然し最近では数が少なくあの独特な歌声を聞く機会が減ってきた。何か鳥の世界にも異変でも起きたのか……越冬する南の島での環境の変化か……地球の温暖化の影響なのか……その為に皺寄せが来ているのが気になるこの頃である。

いつもクログミの歌声が聞こえてくる森林環境がほしいものである。

海外遠征の  
お知らせ

## 2009 プーチエン・ヒマール登山計画書

ネパール中央部、ガネッシュヒマール後方に聳える Puchen・himal (6049m) の初登頂を目指します。この山は、一昨年挑戦しましたが 5800m で時間切れとなり、登頂は出来ませんでした、今回はじっくり時間を掛け、安全に初登頂したいと思います。

1. 登山隊名 2009 プーチエン・ヒマール登山隊
2. 期間 2009年9月14日～10月20日



プーチエン・ヒマール (6049m)



## 3. 隊の編成

加藤功一（日本山岳会熊本支部）…総括・記録  
 石井文雄（日本山岳会熊本支部）…会計  
 加藤 明（日本山岳会熊本支部）…医療・保険  
 田中俊明（電電九州山岳会）…食料  
 茂森修三（日本山岳会福岡支部）…装備  
 サーダー…1 シェルパ…1 コック…1

4. タクティクス BCを交易所の上 3800mに、C1を湖（4600m）に設ける。頂上まで長いため稜線上（5400m）、にC2を設け、余裕を持って登頂する。

5. スケジュール 日本発…9月13日

1日目 登山準備（カトマンズ）

2日目 往路キャラバン（ゴラバンジャン～BC）…

11日目移行（9月17日～27日）

登山期間…9月28日～10月7日

帰路キャラバン…9日（10月8日～16日）

日本帰国① 10月20日…田中、茂森

” ② 10月31日…石井、加藤明（登山終了後、ランタントレッキング）

11月14日…加藤功一（登山終了後、マカルーBCトレッキング）

## 6. 連絡先

（日本）加藤百合子

〒861-0135 熊本県鹿本郡植木町一木 306-2

TEL・FAX 096-272-5261

Mail yamajin.kato1491@yellow.plala.or.jp

（ネパール）大津二三子 Fumiko Otsu

Mail [fumi@mos.com.np](mailto:fumi@mos.com.np)



隊員の合宿（阿蘇高岳・鷲ヶ峰）

## 第3回登山教室

報告 9月20日

期 日 平成21年9月20日（日）

場 所 九重・「黒岩山・泉水山」

参加者数 会員会友 18名 一般 35名

参加費 3000円（バス代・保険料）

当初、9月13日に予定されていた第3回登山教室は執行部の都合により、20日に延期された。

日延べされた関係で参加希望されていた13名程がキャンセルになってしまい、辞退された方に大変迷惑をお掛けしてしまった。それにも関わらず多くの方の参加があり、10数名の方にはお断りをするほどであった。今回の募集は「まつむしろう」の花咲く黒岩山へ行きませんかのキャッチフレーズでのお誘いであったが、花の観賞登山を好まれる皆さんがいかにか多いか物語っていた。

事前にスタッフ数名がコースの下見を兼ねて、花の様子やルートの確認等調査をし、万全の体制を立てて実施した。登山当日は秋の連休と重なり、交通状況に不安はあったものの、大した遅れもなく、予定通りの行程を進めることが出来た。

お目当ての「まつむしろう」は黒岩山山頂直下の草原に満開の花が咲き乱れ、急登を登り切った眼前に可憐な花びらが飛び込んできて、みんな大感激の声をあげた。澄み切った秋の空は遠く湯布岳や阿蘇そして湧蓋山の奥には万年山などが望まれ、正面には煙を吐く硫黄山や三俣山、春の時期にピンクの深山キリシマが咲き誇った星生山等が鮮明に見える。

普段、登山客が少ないこの黒岩山は今日は花を楽しむ登山者で賑わっていた。

暫し、憩いの時を過ごし、泉水山をぬけ、長者原へと歩を進め、急な下り坂を下り、バスの待つ駐車場へたどり着く。感動を胸に帰途につく



## 山岳会ニュース

### ☆ 日本山岳会・2009年度新役員

第23代日本山岳会会長に

尾上 昇氏を選任

平成21年度第1回通常総会が5月23日東京で開催され宮下会長の退任に伴い東海支部の尾上昇氏が新会長に選任されました。

### 尾上新会長のプロフィール

1943年2月生まれ（66歳）

1965年 日大理工学部卒（日大山岳部OB）

1970年 日本山岳会東海支部マカルー学術遠征

1977年～1990年第5代東海支部長

1994年～1998年第7代東海支部長

2006年11月 冬期ローツェ南壁登山総隊長

2008年 第10回秩父宮記念山岳賞受賞

現在 東海支部常任評議員

※ その他の役員は「山」6月号をご覧ください。

### ☆ 第25回全国支部懇談会

福島支部主管で次のとおり開催されます

期日 平成21年10月25日（日）～26日（月）

場所 「ホテル・リステル猪苗代」福島県猪苗代町

日程 10月25日（日）受付 14:30～15:30

記念講演 16:00～17:00

「磐梯山の歴史」講師 佐藤 公氏

懇親会 18:30～20:30

10月26日（月）朝食 6:30～

記念行事 Aコース 磐梯山登山

Bコース 猫魔岳登山・雄国沼

Cコース 中津川溪谷探勝

参加費 18000円（宿泊費・懇親会費・記念品）

### ☆ 平成21年度第2回支部長会議

☆

期日 平成21年9月12日（土）～13日（日）

場所 名古屋市中区富士見町

「ザ・グランドティアラ名古屋本店」

議題

1. JACの課題（尾上会長）

2. 新法人制度移行について（吉永）

3. 支部活性化と公益事業（神崎副会長）

4. 支部の公益事業活動報告

東海支部・北海道支部・茨城支部・信濃支部

東九州支部・宮崎支部

5. 「山の日」について（成川常務理事）

山岳会の森つくりと全国協議会（藤本副会長）

6. 山の日運動報告

広島支部・栃木支部・他の組織の運動

7. 森づくりの報告

本部・東海支部・岐阜支部以上の議題で2日間に渡って真剣な討議がされました。

### ☆ 年次晩餐会イベント出展のお願い。

12月5日に開催されます年次晩餐会のイベントとして、各支部に「おすすめの花の山」と題して支部の推薦する花の山を紹介したいとの連絡があり、その原稿および写真の依頼がありました。（工藤・廣永担当）

### ☆ ホームページのサイドコーナー

JACのHPで支部各地の山の写真を貼り付けてますが、熊本支部からは田上会員のご協力で写真を6枚程度提供していますので近々掲載されます。

## 九州地区の山岳会ニュース

### ☆ 宮崎支部主催

#### 第25回宮崎ウエストン祭

期日 11月2日（月）～3日（火）

場所 宮崎五カ所高原三秀台

次ページ案内をご覧ください。

### ☆ 大分県主管

#### 九州5支部集会（交流会）

期日 11月7日（土）～8日（日）

場所 九重・筋湯「八丁原ビューホテル」

11月7日（土）受付 15:00 開会 16:00

記念講演 「大分四方山話」

各支部からの近況報告

18:00 懇親会

11月8日(日) 午前7:30 出発

- ・ 湧蓋山往復登山
- ・ 八丁原地熱発電所見学

会費 12500 円 (宿泊・懇親会費・弁当)

参加募集の欄をご覧ください。

## 会務報告

4月～9月

4月16日 支部役員会 古町コミュニティセンター 7名

4月26日 21年度支部総会 蔵元 26名

事業報告・会計報告・事業計画・予算  
役員改選 (田上会員退任・松本事務  
局:承認)

平成21年度の支部総会は26名役員改選では2  
4年間事務局として活躍された「田上」会  
員が退任され、新しく「松本」が事務局に  
選任

5月16日～17日 宮崎支部との交流会

11名

第3回となる宮崎支部との交流会は、今回  
宮崎支部の主管で16日(土)の午前10  
時に加江田キャンプ場に集合し、双石山に  
二手に分かれて登山。夜は青島のホテルで  
盛大な懇親会が開かれ交流を深めた。霧島  
山系の「獅子戸山」へ記念登山。



第3回宮崎支部との交流会

6月14日 第2回登山教室「獵師岳」 53名

公益事業の事業で今回で3回目。一般募集  
で集まった33名と20名の会員会友、総  
勢53名で九重山系「獵師岳」へ登山。



第2回登山教室「獵師岳」

6月24日 支部役員会 ワクランド 6名

6月28日 森林保全巡視登山「菊池溪谷」17名  
九州森林管理局からの委嘱事業で森林巡  
視員の研修と森林保全巡視を兼ねた研修  
登山を菊池溪谷で開催した。

8月29日 夏季例会「ビールパーティ」(メルパルク) 25名

9月9日 支部役員会 ワクランド 9名

9月20日 第3回登山教室「黒岩山」 45名  
報告書参照

## 参加者募集

平成21年度宮崎ウエストン祭

期日 11月2日(月)～3日(火)

11/2 15:00 受付

18:00 前夜祭

五ヶ所野菜集荷場

20:00 交流会

五ヶ所公民館

11/3 9:00 ウエストン祭

三秀台

10:40～14:30

記念登山 筒ヶ岳

参加希望者は事務局まで

## 熊本支部の今後の事業

10月3日～4日 第2回脊梁山脈縦走登山  
 10月10日～11日 トレイルラン協力参加  
 10月25日～26日 全国支部懇談会(福島県)  
 11月2日～3日 第25回宮崎WESTON祭参加  
 11月3日 金峰山系山岳マラソン協力  
 11月8日～9日 九州5支部集会(大分県)  
 11月中旬 森林保全巡視登山  
 11月30日 海外登山報告会  
 12月上旬 山の写真展(シェルパ)

※ 詳しくは事務局までお尋ね下さい。  
 ※ 会員会友の皆さんのご参加・ご協力をお願いします。

## 九州森林管理局からのお知らせ

## 九州脊梁山シカ広域一斉捕獲について

1. 対象区域 九州脊梁山域
2. 秋期一斉捕獲期間 10月11日～  
10月25日

この期間はこの区域に入林されないよう  
 お願いします

## 協力参加をお願いします。

11月3日(火)に実施される「金峰山西山  
 三山山岳マラソン大会」にチェッカー等のボラン  
 ティアを募集しています。協力できる方は事務  
 局まで御連絡ください。(10月20日まで)

## 参加者募集

九州森林管理局から委嘱されている巡視員を  
 中心に年2回ほど巡視登山を実施してしま  
 すが、11月14日(土)に今年2回目の研修と  
 巡視登山を実施します。巡視員の方はもちろん、  
 一般の方の参加も自由ですので、沢山の参加を  
 お願いします。詳しくは後日参加者に連絡し  
 ますので参加希望は事務局まで連絡して下さ  
 い。(担当：廣永)

## 第2回「山の写真展」

12月第2週から2週間にかけて恒例の「山の  
 写真展」を開きます。会員会友各位の傑作を募  
 集しています。ふるって出品して下さい。  
 詳しくは、担当(工藤)にお尋ね下さい

## 参加者募集

## 平成21年度九州五支部集会

期日 11月7日(土)～8日(日)

11/7 15:00 受付

九重：筋湯「八丁原ビュホテル」

16:00 記念講演

「大分四方山話」

18:00 懇親会(同ホテル)

11/8 ① 記念登山「湧蓋山」

② 地熱発電所見学

参加費 12500円

(宿泊・二食・弁当代)

参加希望者は事務局まで

御連絡ください 090-3669-2355

車の無い方も配車を検討します

## 2009年度海外登山報告会

期日 11月30日(月) 18:00

会場 崇城大市民ホール第7研修室

## 【 編集後記 】

今回からページ数を少な目にし、年3～4  
 回の発行とすることで、その初版がこの支  
 部報19号です。速報性を持たせ、会の事  
 業や連絡をこの支部報でおこないます。  
 又、原稿等は随時受け付けますので、振る  
 ってご投稿下さい。

6月14日に開催した「第2回登山教室」  
 に続き、9月20日には第3回の開催となっ  
 た「登山教室」盛況の内に終わりました。

参加者の皆さんから、感激の声や、電話  
 やメール、手紙等で届いています。公益事  
 業として実施しているこの事業はかなりの  
 反響を呼び、次回の開催を教えて欲しいと  
 連絡もあります。平成22年の新年晩餐会  
 では新しい仲間が増えるのではないかと楽  
 しみにしております。

(社) 日本山岳会熊本支部

支部報編集者 工藤文昭